

平成29年 3月 1日

足立区立鹿浜第一小学校
学校長 木村 浩昌 様

足立区立鹿浜第一小学校 開かれた学校づくり協議会
会長 小宮 功

平成28年度 学校関係者評価書

1. 自己評価書全般について

前年度の取組みや成果、課題を分析し、下記の3項目を重点的な取組み事項に設定し、学校運営を図った。

重点的な取組み事項には、それぞれに成果目標、達成基準、達成に向けた具体的な取組みを設け、実施結果と課題を詳細に自己評価書としてまとめている。

開かれた学校づくり協議会では、自己評価書や授業参観時の状況、開かれた学校づくり協議会での意見交換等を基に重点的な取組み事項の成果と課題について検証し評価を行った。

重点的な取組事項－1 基礎学力の定着

4月の区学力調査の通過率75%以上を達成基準に、パワーアップタイムの充実、放課後補充指導・補修指導の充実、プレジデントタイムの実施を基準達成の取組みに掲げ、通過率75.9%と基準を達成した。取組みの中でもとりわけプレジデントタイムの実施については、基礎学力の定着がおぼつかない児童を対象に校長先生が中心となって、多忙極まりない中、夏季休業中も含め実施して頂いたのは、関係者として頭の下がる思いです。

つまずきのある児童の指導には時間を要する。特に算数は、積み上げの教科と言われるように、低学年のつまずきが高学年の学習に影響するため、継続した学力調査の分析と教員に負担の少ない合理的な指導体制の構築が求められる。

実施した様々な取組みについては、効果をより確実なものにするため、今後も継続が必要である。

重点的な取組事項－2 幼保小中の連携

連携の推進を通して円滑で欠落のない接続を実現するため、100%の教員が連携事業の必要性を認識することを達成基準に、中学校教員との交流、保育士や学童指導員との交流、教員と児童、生徒との交流を達成基準の取組みに掲げ、基準を達成することができた。

幼保小中連携は学力のためだけではなく、義務教育が終了するまでは、地域の子供は地域で育てるという取組みでもある。

この地域は、子供会や町会・自治会の活動が盛んで、学校側も地域と手を携えて子供を守り、育てる取組みの中に幼保小中の連携を位置づけている。

また、教員、保育士、学童指導員との交流が、テリトリーを超えた新たな研鑽の場となり、児童、生徒にフィードバックされることを期待したい。

重点的な取組事項－3 心の教育の推進

自他を尊重する気持ちと態度の育成（思いやりの心、規範意識、礼儀）を実現するため、児童アンケート結果 80%以上を達成基準に、気持ちのよい挨拶の推進、交流活動の充実、伝統文化を大切にする活動の推進、地域や社会とのつながりや環境を大切にする活動の推進を取組みに掲げ、どの項目も基準を達成することができた。中でも思いやりの心については96.5%の児童が向上したと回答している。

心の教育の推進の取組みは、以前から継続して行われており、元気なあいさつや落ち着いた授業態度などを見るにつけ、取組みの成果は着実に上がっていると感じる。

伝統文化を大切にする活動の推進の取組みでは、俳句を取り上げているが、俳句は作文などと違って、17音で感情や情緒を表現する瞬発力が要求される。表現力や自然への関心を高め、感情や情緒を育むには有効とされており、継続することで更に成果の向上が期待できる。

また、地域には伝統・文化を継承する団体が数多く存在することから、これらの団体と連携することで心の教育の推進が図れないか、団体と学校で協議してはどうか。

2. 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

現状と課題に対し、詳細な検討を加え3項目の重点的な取組み事項を定め、教員が一丸となって課題の克服に努めている。取り組んだ成果は着実に結果に反映されており、評価したい。校内に留まらない複合的な課題については、開かれた学校づくり協議会、学校、PTA、家庭、地域等と連携しながら克服に努めていきたい。

3. その他

学校を取り巻く環境が変化している中で、学校と家庭の連携ができにくくなってきている面もあることから、学校と家庭、地域も含めて連携を深める術を模索する必要がある。

地域からも積極的に発信するが、学校も地域を使う、協働するという意識を前面に出して積極的にアプローチしてもらいたい。